

『マイナス傾向ながら改善の兆し、問題点も変化』

山口商工会議所では、管内中小企業100社を対象に景況調査を実施し、このほど平成21年4～6月期の実績と平成21年7～9月期見通しについての調査結果をまとめた。（回答率78%）調査は3ヶ月毎に年4回行う。

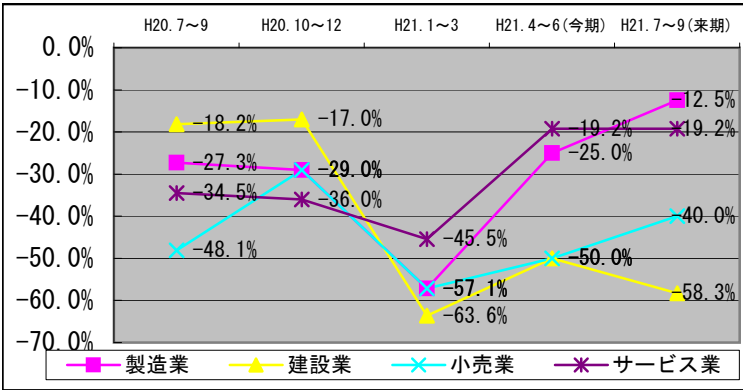
業況DI値について、前年同月比の今期（平成21年4～6月）の状況を集計したところ、業況判断DIは、全産業、各産業ともかわらずマイナスで推移しているが、やや改善傾向にある。売上については、各業種で0もしくはマイナスながらもほぼ横ばい、製造業はDI値が改善した。仕入単価は、原油高騰などの影響も一段落し、微減傾向である。経常利益についても改善傾向にある。

新規設備投資について、今期中に設備投資を実施した企業は全体の11.5%、来期設備投資を計画する見通しである企業は6.4%と、前回調査より設備投資意欲が後退している。また、今期の経営問題では、「需要の停滞」が各業種とも高水準である。原油価格高騰時の「原材料価格の上昇」問題は落ち着いたが、「請負単価の低下・上昇難」などの収益面が引き続き厳しい状況にある。

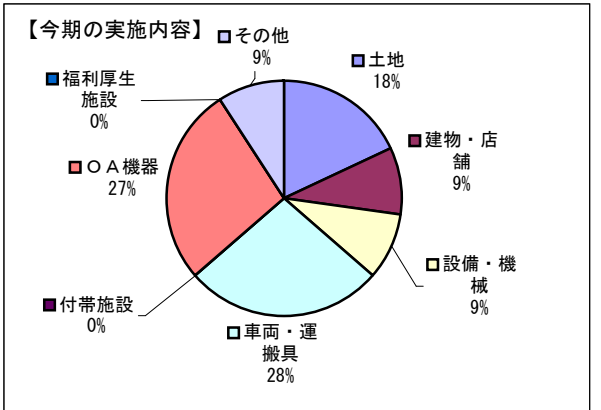
◆業況DI値（今期の状況）

	業況判断	前回調査比	売上	前回調査比	資金繰り	前回調査比	仕入単価	前回調査比	経常利益	前回調査比	従業員数	前回調査比
全産業	-37%	↗	-46%	↗	-28%	↗	-1%	↘	-37%	↗	-4%	→
製造業	-25%	↗	0%	↗	-13%	↗	38%	→	0%	↗	0%	→
建設業	-50%	→	-58%	→	-50%	→	0%	↘	-75%	→	-8%	→
小売業	-50%	→	-57%	→	-33%	→	0%	→	-33%	↗	0%	→
サービス業	-19%	↗	-42%	→	-15%	↗	-12%	↘	-35%	↗	-4%	→

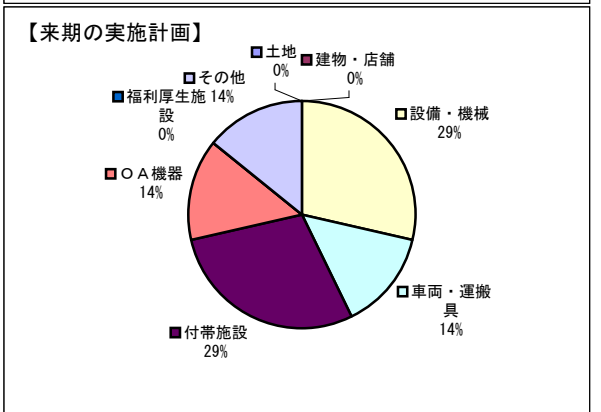
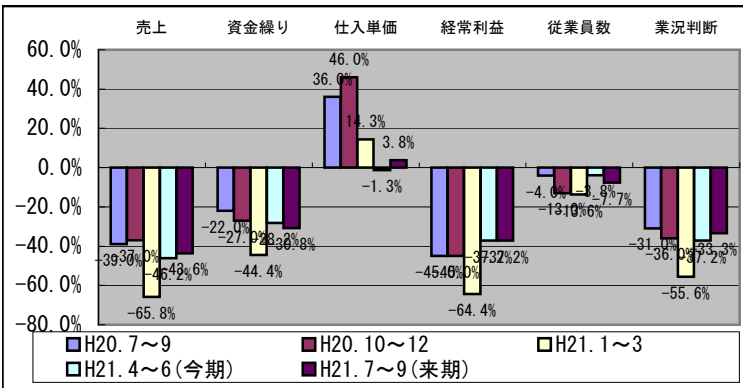
◆産業別業況判断DI（前3期からの推移と来期見通し）



◆新規設備投資（今期実施・来期計画）



◆全産業DI項目別比較（前3期からの推移と来期見通し）



◆経営上の問題点

	製造業	建設業	小売業	サービス業
1位	需要の停滞 30.0%	民間需要の停滞 28.1%	需要の停滞 21.9%	需要の停滞 26.6%
2位	製品(加工)単価の低下・上昇難 20.0%	請負単価の低下・上昇難 25.0%	購買力の他地域への流出 13.7%	利用者ニーズの変化への対応 25.0%
3位	原材料価格の上昇 15.0%	官公需要の停滞 21.9%	消費者ニーズの変化への対応 13.7%	人件費以外の経費の増加 9.4%

※DIとは、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目についての増加（好転）企業割合から減少（悪化）企業割合を差し引いた値を示す。